

6. 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島とならんで温暖な地方である。しかし両総台地は内陸性気候で寒暑の差はやや大きく、反対に太平洋岸及び内湾沿岸は海洋性の気候で比較的暖かく、特に房総南部沿岸地帯は冬も霜をみないほどである。

雨量は地域により差はあるが、房総丘陵の南側及び銚子地方が多く、北西部は少ない。特に内湾沿岸は本県でも最も雨量の少ない地域である。

昭和63年の気象の特記事項は次のとおりである。1月18日には、房総半島中部を東西に延びる前線帯が南下し、この前線通過に伴い安房郡千倉町でつつ巻が発生した。5月28日、29日には、県北部の所々でひょうが降り、なし等の農作物に被害（5億9700万円）を与えた。

また、6、7、8、9、10月の各月には大雨や強雨により、家屋の浸水、道路損壊、ガケ崩れ等の被害が続出、8月11日には木更津市において住宅が押しつぶされ2名が死亡した。

7月から9月にかけては梅雨前線、秋雨前線及び熱帯低気圧の影響で曇や雨の日が多く、日照不足となった。この天候不順が農作物に大きな影響を与え、被害総額は162億円にのぼった。

県内年平均気温（℃）

県内年降水量（mm）

